

〔感染症発生動向調査企画委員会情報〕

4月報

インフルエンザ定点（小児科定点を含む）

インフルエンザ 報告数1,683件(前月比0.3、前年比1.2)と3月の5,133件から激減しています。一昨年と昨年の中間的な推移です。八代(定点あたり45.7、報告320件)、天草(同29.6、同207件)、御船(同25.0、同125件)、宇城(同25.0、同150件)、菊池(同24.0、同192件)に多いようですが、阿蘇を除く地区より定点当たり二桁の報告があります。

小児科定点

(全体傾向)

報告総数4,401件(前月比0.55、前年比1.16)でした。減少の主な理由は、インフルエンザの減少です。多くの疾患が減少していますが、手足口病が60から197件(前月比3.3)へ、ヘルパンギーナも29から69件(同2.4)と増加しています。

(疾患別傾向)

1. RSウイルス感染症 : 報告は15件で、12月をピークとして例年同様に次第に減少しています。1歳児を中心として2歳以下の報告です。宇城(定点あたり1.5、6件)に多いようです。
2. 咽頭結膜熱 : 報告数86件(前月比0.8、前年比1.1)と、昨年並みの動きで減少しています。今後、夏に向け増加して行くものと思われます。1歳、次に0歳が多いのですが、幅広く分布しています。菊池(定点あたり4.6、報告数23件)、有明(同4.0、20件)が目立ちます。
3. A群溶連菌咽頭炎 : 報告数409件(前月比0.8、前年比2.3)です。ここ数年では最も多い報告が続いています。5歳を中心として、3歳～8歳で多いようです。菊池(定点あたり13.0、65件)、宇城(同11.8、47件)、八代(同10.0、40件)で定点あたりの報告が二桁となっています。報告のない地区はなく、全県下で発生しているようです。
4. 感染性胃腸炎 : 報告数1,340件(前月比0.8、前年比1.1)と報告数・推移も例年と同様でした。年齢では1歳にピークがありますが、0歳から5歳まで3桁の報告数です。県下半数の地区から三桁の報告があります。報告が多いのは、山鹿(定点あたり44.0、88件)、菊池(同43.0、215件)、有明(同42.2、211件)です。
5. 水痘 : 報告数75件(前月比0.7、前年比1.3)と、2年前と似たような推移です。昨年秋から増加傾向がありましたが、今年になり減少傾向に転じたようです。昨年前半の報告数に近づきつつあります。菊池(定点あたり3.6、18件)、八代(定点あたり3.3、13件)が目立ちますが、山鹿・阿蘇・御船からの報告はなく、また水俣・天草も各々1件であり、二桁の報告は前記の3地区のみでした。1～2歳を中心とした流行であり、定期接種対象年齢が最も多いこととなります。改めて予防接種の周知が必要かと考えます。
6. 手足口病 : 報告数197件(前月比3.3、前年比16.4)と増加しています。昨年は秋にやや流行があり年が明けて減少しています。流行の立ち上がりも早いかもしれませんので今後の推移に注意が必要と考えます。菊池(定点あたり6.6、33件)、熊本(同6.1、98件)、水俣(同6.0、12件)、宇城(同6.0、24件)に多く見られます。人吉以外の地区からは報告があります。
7. 伝染性紅斑 : 報告数17件(前月比0.9、前年比0.1)と、昨年後半よりの低い報告数で推移しています。0～6歳に各々数例の報告です。
8. 突発性発疹 : 報告数172件(前月比1.3、前年比1.4)と、報告数は一昨年と昨年の中間ですが、推移は例年並みです。阿蘇・御船の二地区を除き県下から報告があります。年

齢は3歳以下でした。

9. 百日咳 : 報告はありませんでした。今年になつての報告はありません。
10. ヘルパンギーナ : 報告数69件(前月比2.4、前年比2.2)と例年同様の推移です。天草(定点あたり9.0、36件)が特に多く、次に八代(同4.3、17件)が多いようです。1歳を中心とし0~3歳の報告です。
11. 流行性耳下腺炎 : 報告数116件(前月比0.9、前年比0.4)と一昨年6月から始まり昨年の9月をピークとした今回の流行も一昨年の水準に戻りつつあります。特に多いのは天草で(定点あたり8.3、33件)、次に八代(同4.8、19件)です。二桁の報告があるのは、熊本(同1.8、28件)・菊池(同3.2、16件)・宇城(同2.5、11件)です。0歳児からの報告はありません。1歳からはすべての年齢層で報告があり、4歳をピークとしています。VPDですので予防接種の再周知が必要です。

眼科定点

1. 急性出血性結膜炎 : 報告はありません。
2. 流行性角結膜炎 : 報告数48件(前月比1.3、前年同月0.7)と前月よりも微増しており、今後注意が必要です。熊本41件、有明7件の報告で、他地区からの報告はありません。年齢別では20~39歳にピークがありますが、50歳以上の年齢層にも多くはありませんがまとまった発症があります。乳幼児層の発症はわずかです。

STD定点

※平成25年1月から、定点医療機関数の見直しに伴い、定点医療機関が13医療機関から16医療機関に増えました。

1. 性器クラミジア感染症 :
報告数38件(前月比1.0、前年比1.1)で、前月比と同数、前年比はやや増加しています。男女別は、男性、女性とも19件で同数でした。年齢別は、男性は20~69歳と幅広く見られ、女性は20~24歳に9件と多く見られています。地区別は、熊本が24件と圧倒的に多く、次いで御船5件、菊池3件、八代、有明、宇城に各2件でした。
2. 性器ヘルペスウイルス感染症 :
報告数23件(前月比1.5、前年比1.6)で前月比、前年比とも増加しています。男女別は、男性に12件とやや多く見られています。年齢別は、男性は20~64歳、女性も25~70歳以上と幅広く見られています。地区別は、熊本が16件と多く、次いで菊池4件、八代2件、宇城1件でした。
3. 尖圭コンジローマ :
報告数6件(前月比0.7、前年比1.5)で、前月比は減少、前年比は増加しています。男女別は、男性に4件と多く見られています。年齢別は、男性は20~24歳に2件、35~39歳、40~44歳に各1件、女性は20~24歳、40~44歳に各1件見られました。地区別は、熊本5件、菊池1件でした。
4. 淋菌感染症 :
報告数15件(前月比0.6、前年比1.4)で、前月比は減少、前年比は増加しています。男女別は、男性が14件と、ほとんどでした。年齢別は、男性は20~29歳に9件と多く、女性は20~24歳に見られました。地区別は、熊本13件と多く、次いで宇城2件でした。

基幹定点

(月報分)

1. メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症 :

報告数23件 (前月比 0.6、前年同月比 1.8) でした。先月40件から減少しほぼ例年並みでした。0歳0件、70歳以上が17件 (74%) でした。

2. ペニシリン耐性肺炎球菌感染症 :

報告数6件 (前月比 1.0、前年同月比 1.5) でした。ほぼ例年並みです。1~4歳が2件、65歳代以上が3件でした。

3. 薬剤耐性緑膿菌感染症 :

報告数0件 (前月から-1件、前年同月から増減なし) でした。

(週報分)

1. 細菌性髄膜炎 :

報告数7件 (前月比 2.3、前年同月から +7) でした。すべて熊本からの報告でした。20歳未満は0件、70歳以上が3件でした。過去3年で最も多い月単位報告数であり要注意です。

2. 無菌性髄膜炎 :

報告数2件 (前月比 2.0、前年同月比 0.7) でした。1~4歳1件、50歳代1件でした。

3. マイコプラズマ肺炎 :

報告数5件 (前月比 0.5、前年同月比 0.4) でした。3ヶ月連続で減少し、4月としては過去3年で最低です。

4. クラミジア肺炎 :

報告数0件 (前月、前年同月から増減なし) でした。

5. 感染性胃腸炎 (ロタウイルスによる) :

報告数48件 (前月比 3.4、前年同月比 2.0) でした。昨年同時期と同様に増加傾向であり要注意です。熊本40件、人吉5件、有明3件でした。0歳7件、1~4歳33件、5~9歳7件でした。

届け出対象感染症

1類感染症 : 報告はありませんでした

2類感染症 : 結核 24件

3類感染症 : 腸管出血性大腸菌感染症 4件

4類感染症 : レジオネラ症 1件

5類感染症 : アメーバ赤痢 1件

カルバペネム耐性腸内細菌感染症 1件

侵襲性インフルエンザ菌感染症 2件

侵襲性肺炎球菌感染症 4件

水痘 (入院例) 1件

梅毒 10件

麻しん 2件